

shindaiwa[®]

取扱説明書

エンジン投光機

SL223IDG

SL433IDG

SL223IDGC

SL433IDGC

▲ 注意

安全のため、ご使用前に必ずこの取扱説明書をお読みください。
また、いつでもご覧いただけるよう、大切に保管してください。

SL433IDGC
X753-005 81 0
X753809-050 0

はじめに

このたびは、新ダイワのエンジン投光機をお買い求めいただき、まことにありがとうございます。

- この取扱説明書は、本機を安全に正しく使用していただくために作成しています。本機の取扱いを誤りますと事故や故障の原因となりますので、ご使用前には必ずこの取扱説明書をお読みください。
- 発電機の取扱いについては、発電機の取扱説明書をお読みください。
- 本機の取扱いは、この取扱説明書の内容を理解し、安全な取扱いができる人が行ってください。また、安全作業上で影響が出るような病気・薬服用・体調不良の場合は、本機の使用を控えてください。
- 本機を使用した作業や本機の取扱いにおいては、関連する法律（労働安全衛生法、電気事業法、電気工事士法、消防法、騒音規制法等）およびそれらの法律に基づく規則を遵守してください。
- 本機を貸し出すときは、必ず取扱説明書を添付し、よく読んでから使用するよう指導してください。
- この取扱説明書は、いつでもご覧いただけるよう、所定の場所に大切に保管してください。紛失・汚損・破損したときは、お求めの販売店にご注文ください。
- ご不明な点、お気づきの点がありましたらお求めの販売店にご相談ください。また、本機についてのお問い合わせ時は、モデル名と製造番号をお知らせください。
- 本機を廃棄される場合は、産業廃棄物として関連法規に基づいた処理を行ってください。処理にお困りのときは、お求めの販売店にご相談ください。

■この取扱説明書では、注意事項のランクを下記のように区分しています。

▲ 警告：取り扱いを誤ると、死亡または重傷を負う可能性がある場合。

▲ 注意：取り扱いを誤ると、中程度の傷害や軽傷を負う可能性がある場合および物的損害が発生する可能性がある場合。

〈**注意**〉：本機の保護と、本機の性能を十分に発揮させるための注意事項。

- 『**▲ 注意**』に記載した事項でも、状況によっては重大な事故に結びつく可能性があります。いずれも重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。

目 次

1. 安全上の注意	2
2. 仕様	4
3. 用途	5
4. 各部の名称	5
5. 操作方法	7
5-1. 台車ハンドルの操作	7
5-2. 車輪ブレーキの操作	7
5-3. アウトリガーの操作	8
5-4. 灯具および灯具台の操作	9
5-5. マストの昇降操作	11
6. 運転方法	11
6-1. 点灯	12
6-2. 消灯	12
7. 運搬方法（移動・車載）	13
8. ランプの交換方法	14
9. 発電機の積み降ろし方法	15
10. 点検・整備	16
11. 長期保管	18
12. 故障時の対応	19

1. 安全上の注意

⚠ 警告：転倒

- 強風で灯具ランプが大きくゆれる場合は、マストを下げて使用してください。
- マストを最大に伸ばしたときの転倒風速は20m/sですが、転倒に対する安全確保のためにも風速15m/s以上(目安：電線がゆれる、傘がさしにくいなどの状態)では使用しないでください。
- 地盤のしっかりした水平な場所で使用してください。やむをえず傾斜地で使用する場合は、マストが傾かないよう(垂直になるよう)車輪の下にブロックなどを敷いてレベル調整してください。
- 台車が動かないように、必ず車輪ブレーキを掛けて使用してください。同時に車輪止めも使用してください。
- アウトリガーを装備している機種は、アウトリガーで本機を固定してください。この時、本機が水平になるよう調整してください。
- 移動・車載など運搬時は、必ずマストを最低位置まで下げてください。
- 車載方向は、発電機側を進行方向(マストが後方)に向けてください。逆に向けると、急ブレーキを掛けたときに転倒しやすくなります。
- 車載固定は、必ず車輪ブレーキとロープ掛けを行ってください。尚、ロープのゆるみを防止するために、台車ハンドルを左右どちらかにきって、前輪に車輪止めを使用してください。
- ブレーキ調整時は、本機のブレーキ機能が使用できないため、必ず地盤のしっかりした水平な場所で、車輪に車輪止めを使用し、マストを最低位置まで下げて行ってください。

⚠ 警告：落下/けが

- フォークリフトで投光機を搬送する場合は、必ず発電機を搭載した状態で、マストを最低位置まで下げ、フォークを奥まで差し込んで行ってください。
- 本機を吊り上げるときは、必ず吊り金具を使用してください。
- 台車から降ろした発電機を搭載するときは、発電機を固定するボルトやナットを確実に締め付けてください。

⚠ 警告：感電

- 運転中、本機や体がぬれているときは、本機に触れないでください。
- ランプなど点検・整備を行うときは、必ずエンジンを停止してください。

⚠ 警告：転倒/けが

- 設置したアウトリガーに注意してください。つまりいて転倒する恐れがあります。

⚠ 警告：視力障害

- ランプの近くで長時間作業をしたり、ランプを直視しないでください。

⚠ 注意：けが

- マストの昇降時は、マスト、ウインチドラム、ワイヤーに触れないでください。
- 灯具台の向きを変えるときは、必ず片手で灯具台または灯具脚を支えたまま、旋回ハンドルをゆるめてください。
- 灯具の向きを変えるときは、不自然な姿勢で行わないでください。
- アウトリガーの設置と収納は、必ずアウトリガーを片手で支えて行ってください。
- アウトリガーを設置または収納するときは、アウトリガーを持った手をマストやウインチハンドルで挟んだり引っかいたりしないように注意してください。
- ランプを必要以上の力で締め付けしないでください。破損することがあります。
- 改造したり、部品を外したまま使用しないでください。

⚠ 注意：やけど

- ランプ点灯時や消灯直後は、ランプ、灯具、安定器が高温になっていますので触れないでください。

- 灯具が高温になっているときに、やむをえず灯具を操作する場合は、作業用手袋を着用してください。

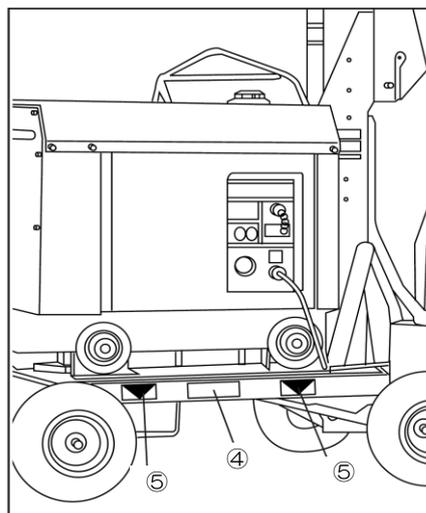
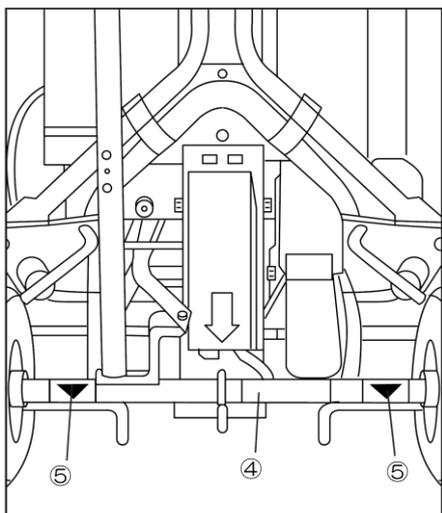
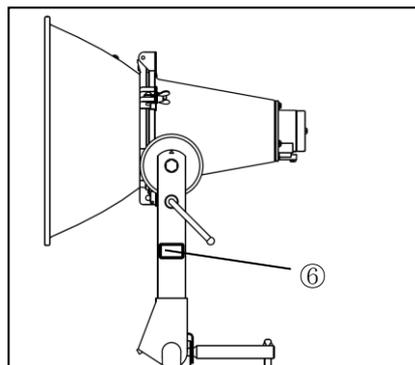
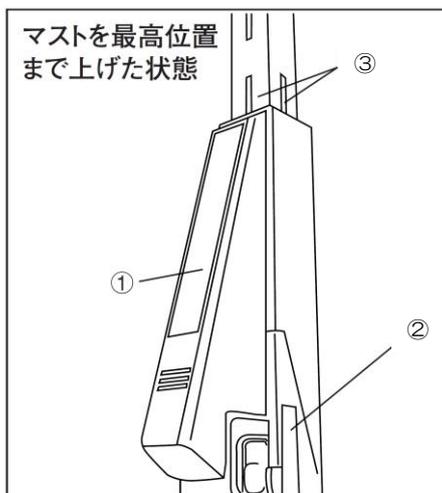
⚠ 注意：感電

- 本機に水をかけたり、雨中での使用はしないでください。

■ 警告ラベルの貼付位置

警告ラベルが見えにくくなったり破損したときは、新しいラベルを指定場所に貼りかえてください。ラベルの注文は（ ）内の番号で注文してください。

- ① 危険：けが
(部品番号 X505-008280)
- ② 危険：ウインチハンドル回転方向
(部品番号 X505-008240)
- ③ 注意：↓ (矢印)
(部品番号 X505-007790)
- ④ 危険：落下／けが
(部品番号 X505-008270)
- ⑤ ▼フォーク吊上げ位置
(部品番号 M704-002590)
- ⑥ 注意：高温注意
(部品番号 X505-008310)



2. 仕様

投光機	型式	SL223IDG	SL433IDG	SL223IDGC	SL433IDGC		
	仕様	2灯式	4灯式	2灯式	4灯式		
	定格電圧(V)	100					
	定格周波数(Hz)	50/60					
	定格消費電力(W)	870	1740	870	1740		
	適応電灯の定格消費電力(W)	400×2	400×4	400×2	400×4		
	投光機のセット乾燥質量(kg)	284	337	295	348		
	ランプ	種類	メタルハライド				
		消費電力(W)	400×2	400×4	400×2	400×4	
		全光束(lm)	66,000	132,000	66,000	132,000	
	マスト	段数	2	3	2	3	
		材質	1~2段(アルミ)	1~3段(アルミ)	1~2段(アルミ)	1~3段(アルミ)	
		昇降装置	手動ウインチ				
		落下防止装置	あり				
	台車	タイヤ	φ300空気入り				
		アウトリガー	0	2	0	2	
	外形寸法	作業時高さ(mm)	3,600~2,255	4,705~2,155	3,600~2,255	4,705~2,155	
		収納時	全長(mm)	1,280	1,423	1,280	1,423
			全幅(mm)	1,070			
			タイヤ外ヒッチ(mm)	790			
全高(mm)			1,760	1,655	1,760	1,655	
乾燥質量(kg)	116	169	116	169			
安定器の必要性	要						
搭載発電機	型式	IDG3100M		IDG3100MC			
	発電方式	多極回転回磁型					
	電圧調整方式	インバーター					
	周波数(Hz)	50/60					
	定格出力(kVA)	3.1					
	定格電圧(V)	100					
	定格電流(A)	31					
	定格回転数(min ⁻¹)	3,000					
	燃料の種類	軽油					
	燃料タンク容量(L)	15.5		16			
	連続運転可能時間(時間)	[23]	[16]	[24]	[16.5]		
	潤滑油容量(L)	1.9					
	出力モニターランプ	あり(出力・周波数兼用)					
	過負荷モニターランプ	あり(出力自動遮断)					
	過回転モニターランプ	あり(自動停止)					
	油圧モニターランプ	あり(油圧低下自動停止)					
	充電モニターランプ	あり(自動停止)					
	水温モニターランプ	あり(自動停止)					
	オイルガードモニターランプ	なし		あり			
	始動方式	セルスタート					
乾燥質量(kg)	168		179				

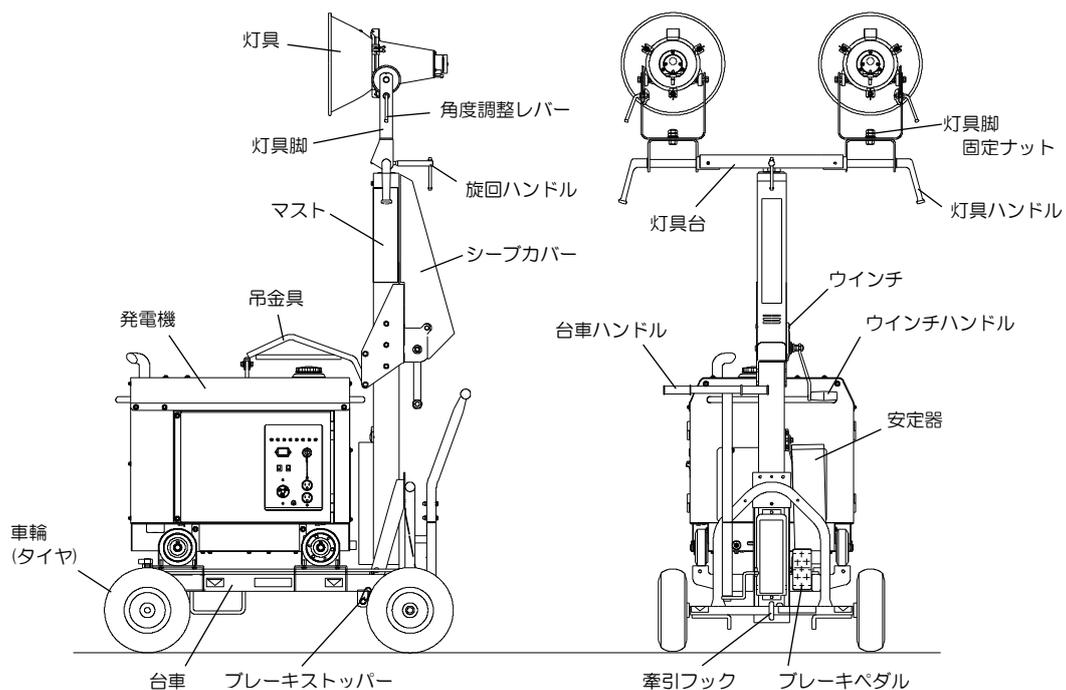
[]内は、エコモード運転時

3. 用途

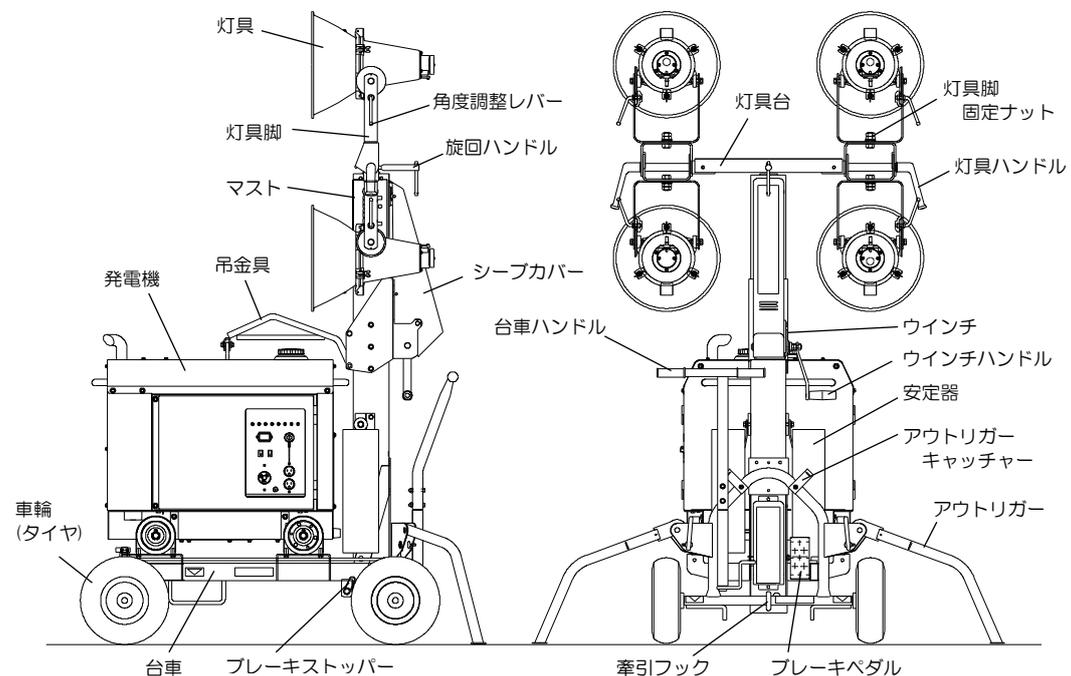
○各種証明

4. 各部の名称

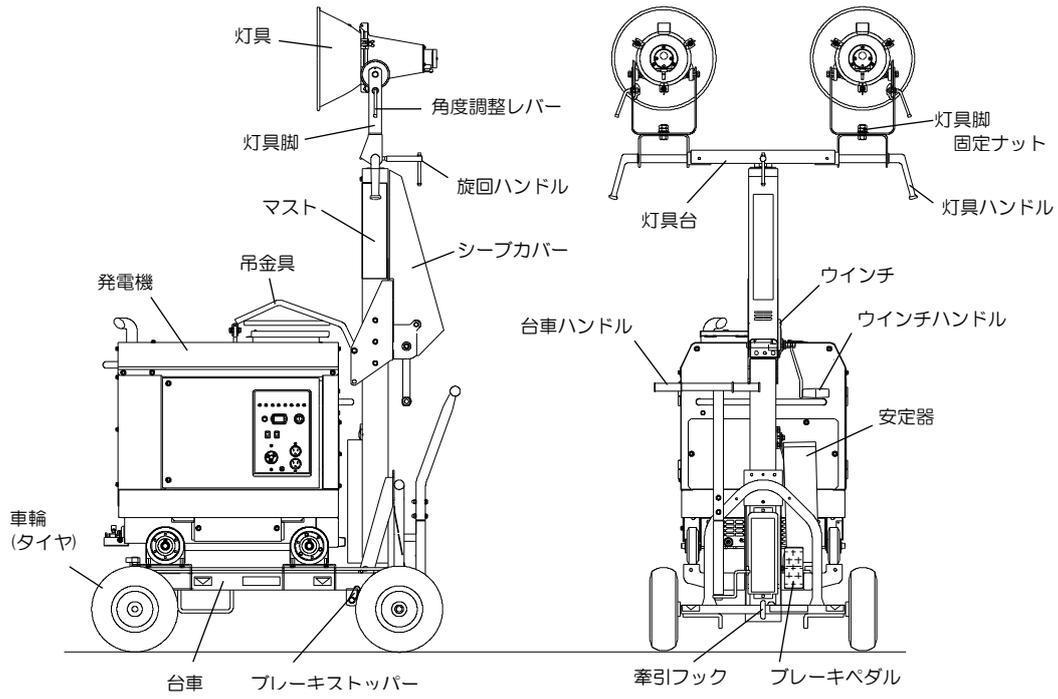
SL223IDG



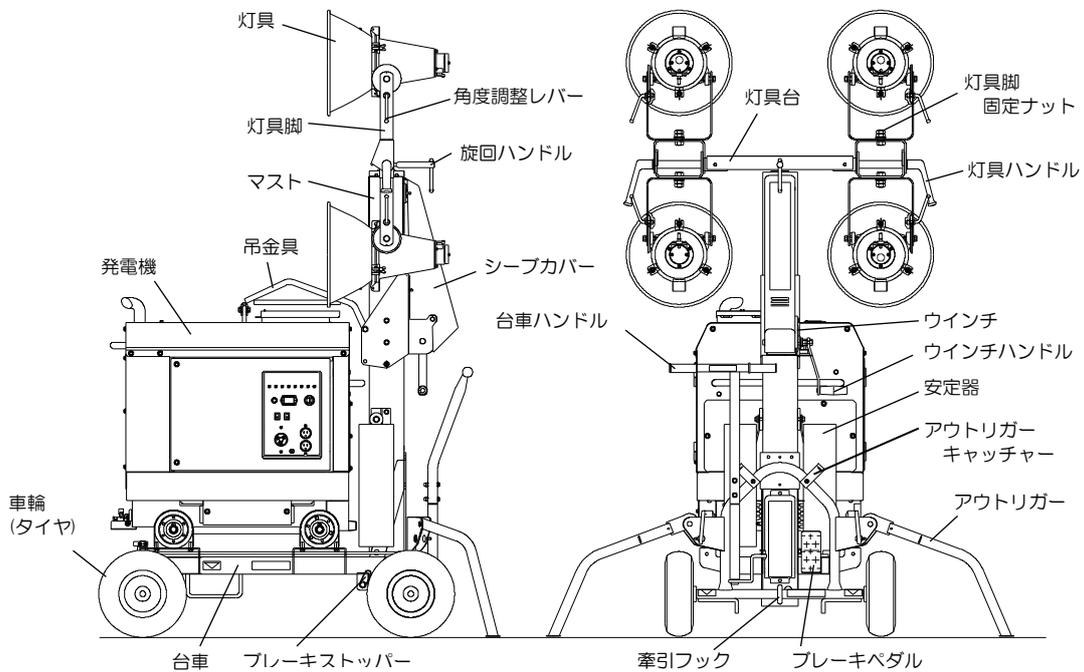
SL433IDG



SL223IDGC



SL433IDGC



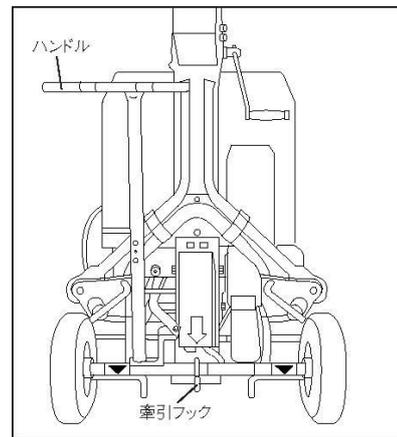
5. 操作方法

5-1. 台車ハンドルの操作

ハンドルを右に切ると前輪が右に曲がり、左に切ると前輪が左に曲がります。

〈注意〉

- 車輪が埋まるなどして本機を牽引する場合は、必ず台車の牽引フックを使用してください。ハンドルで牽引すると、変形・破損の原因となります。



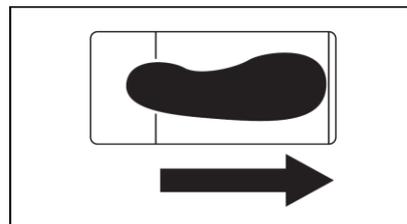
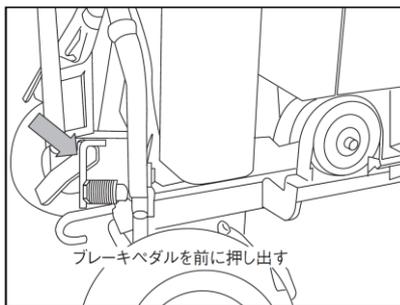
5-2. 車輪ブレーキの操作

〈注意〉

- ブレーキの効きが弱いときは、車輪の空気圧およびブレーキのストッパー角度を調整してください。（『10. 点検・整備』を参照）

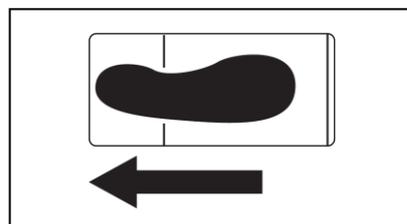
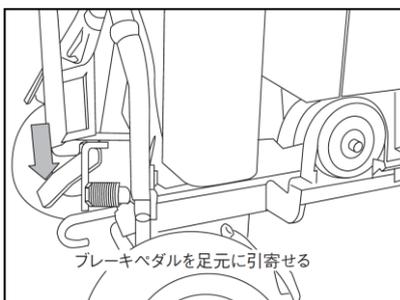
(1) ブレーキ解除

ブレーキペダルを踏み込み前に押し出すと、ブレーキが解除されます。



(2) ブレーキ作動

ブレーキペダルを踏み込み足元に引き寄せると、ブレーキが掛かります。



5-3. アウトリガーの操作

⚠ 警告：転倒／けが

- 設置したアウトリガーに注意してください。つまずいて転倒する恐れがあります。

⚠ 注意：けが

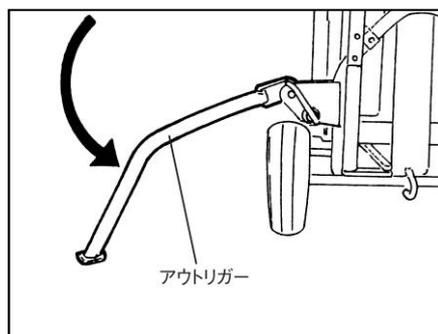
- アウトリガーの設置と収納は、必ずアウトリガーを片手で支えて行ってください。
- アウトリガーを設置または収納するときは、アウトリガーを持った手をマストやウインチハンドルで挟んだり引っかいたりしないように注意してください。

(1) アウトリガーの設置

- 1 アウトリガーをアウトリガーキャッチャーから引き出し、地面に下ろします。アウトリガーは自動でロックされます。

〈注意〉

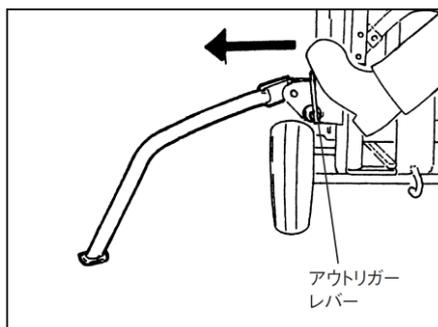
- アウトリガーをロックできる設置高さは水平位置から上下約 100mmの範囲です。傾斜地で、車輪の下にブロックを敷いたときなど、アウトリガーの設置高さが変わりますので、注意してください。



- 2 アウトリガーを持ち上げ、ロックの確認をします。

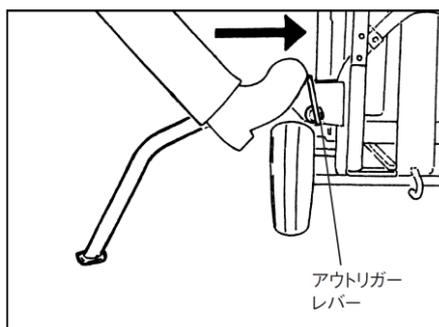
〈注意〉

- ロックが不十分な場合は、アウトリガーレバーを外側（反マスト側）に軽く踏み込んでください。



(2) アウトリガーの収納

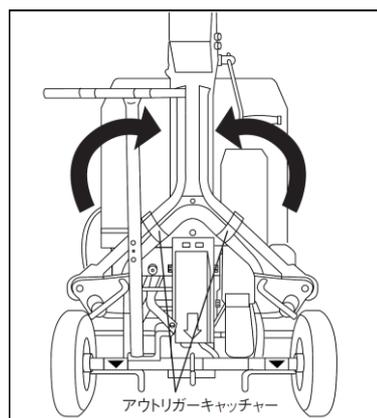
- 1 アウトリガーレバーをマスト側に踏み込んで、ロックを解除します。



- 2 踏み込んだまま、アウトリガーを持ち上げ、アウトリガーキャッチャーに押し込みます。

〈注意〉

- 本機を移動させる時は、必ずアウトリガーを収納してください。



5-4. 灯具および灯具台の操作

⚠ 警告：感電

- 運転中、本機や体がぬれているときは、本機に触れないでください。

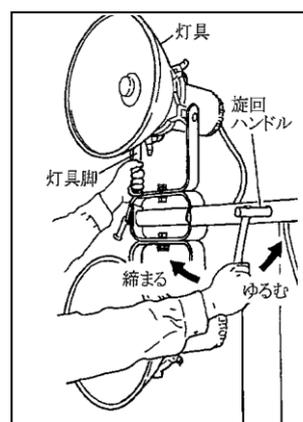
⚠ 注意：けが・やけど

- 灯具台の向きを変えるときは、必ず片手で灯具台または灯具脚を支えたまま、旋回ハンドルをゆるめてください。
- ランプ点灯時や消灯直後は、ランプ、灯具、安定器が高温になっていますので触れないでください。
- 灯具が高温になっているときに、やむをえず灯具を操作する場合は、作業用手袋を着用してください。
- 灯具の向きを変えるときは、不自然な姿勢で行わないでください。

(1) 左右方向に投光向きを変える場合

全灯同時の場合

- 1 灯具脚を片手で支え、旋回ハンドルをゆるめます。
- 2 灯具を任意の向きにし、旋回ハンドルを締め付け固定します。

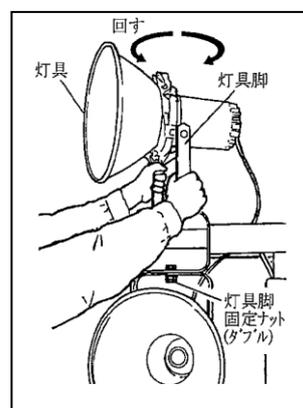


各灯個別の場合

灯具脚を両手で持ち、任意の向きにしてください。
(灯具脚固定ナットの締め付けは不要です。)

〈注意〉

- 灯具コードの引っ掛かりに注意してください。
- 万一灯具脚固定ナットがゆるんだ場合は、次の手順でナットを締め付けてください。
 - ① ナット（皿バネに近い側）を手で締め込みます。
 - ② 手で回らなくなったら、スパナ（対辺 27mm）を使用して90° 締め込んでください。
 - ③ ナット（皿バネに近い側）が回らないようスパナで固定したまま、もう一方のナット（皿バネから遠い側）を締め込み、灯具を固定してください。



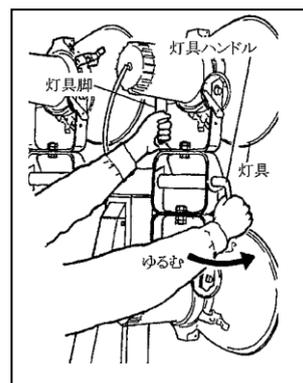
(2) 上下方向に投光向きを変える場合

全灯の場合

〈注意〉

右側、左側が別々に動きますので、個別に行ってください。

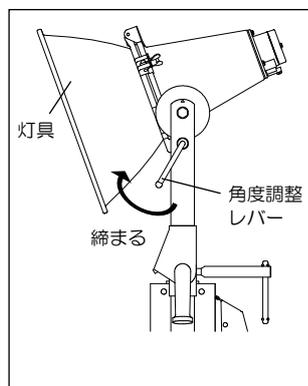
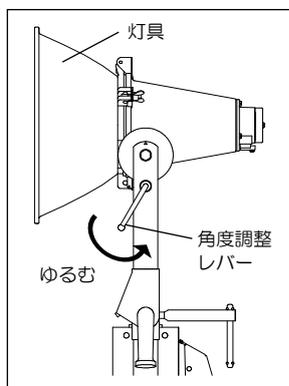
- 1 灯具脚を片手で支え、右（左）側の灯具ハンドルをゆるめます。
- 2 灯具脚を任意の向きにし、灯具ハンドルを締め付けて固定します。



各灯個別の場合

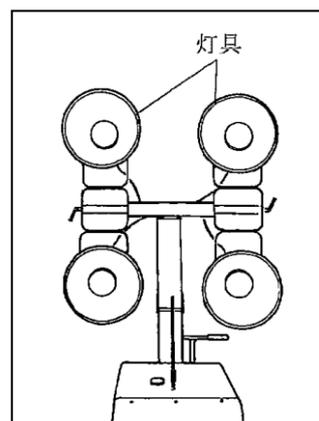
1 角度調整レバーをゆるめます。

2 灯具を任意の向きにし、角度調整レバーを締め付けて固定します。

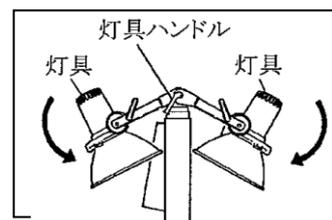


(3) 移動・運搬時の灯具の収納

1 灯具を正面に向け、旋回ハンドルを締め付けて固定します。



2 灯具を下向きにし、灯具ハンドルを締め付けて固定します。



5-5. マストの昇降操作

⚠ 注意：けが

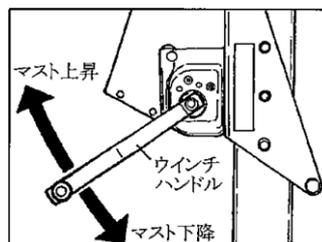
- マストの昇降時は、マスト、ウインチドラム、ワイヤーに触れないでください。

〈注意〉

- ウインチドラム側面にあるリングギヤのグリスが切れると、ウインチの寿命が低下します。『10. 点検・整備』の項に従って、定期的にグリスを塗ってください。

(1) マスト上昇

ウインチハンドルを右に回す（時計回転）と、マストが上昇します。

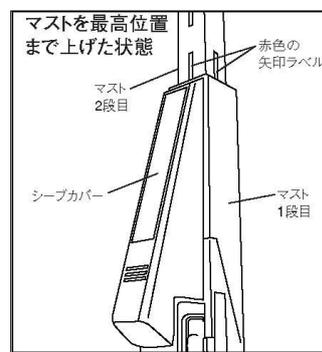


〈注意〉

- マストが最高位置になるとウインチハンドルの回転が重くなりますので、それ以上、無理な力を加えないでください。赤色の矢印ラベルが見える位置が、最高位置です。無理に回すとウインチ、ワイヤー、滑車部の故障や破損の原因となります。

(2) マスト降下

ウインチハンドルを左に回す（反時計回転）と、マストが降下します。



〈注意〉

- マストが最低位置を過ぎると、逆巻防止装置が働きウインチハンドルが動かなくなります。無理にハンドルを回さないでください。

6. 運転方法

⚠ 警告：転倒

- 強風で灯具ランプが大きくゆれる場合は、マストを下げて使用してください。
- マストを最大に伸ばしたときの転倒風速は20m/sですが、転倒に対する安全確保のためにも風速15m/s以上(目安：電線がゆれる、傘がさしにくいなどの状態)では使用しないでください。
- 地盤のしっかりした水平な場所で使用してください。やむをえず傾斜地で使用する場合は、マストが傾かないよう（垂直になるよう）車輪の下にブロックなどを敷いてレベル調整してください。
- 台車が動かないように、必ず車輪ブレーキを掛けて使用してください。同時に車輪止めも使用してください。
- アウトリガーを装備している機種は、アウトリガーで本機を固定してください。この時、本機が水平になるよう調整してください。

⚠ 警告：感電

- 運転中、本機や体がぬれているときは、本機に触れないでください。
- ランプなど点検・整備を行うときは、必ずエンジンを停止してください。

⚠ 警告：視力障害

- ランプの近くで長時間作業をしたり、ランプを直視しないでください。

⚠ 注意：感電

- 本機に水をかけたり、雨中での使用はしないでください。

〈注意〉

- 投光機点灯中は、発電機に他の電気機器を接続しないでください。電動工具などと同時使用すると、始動時に大きな電流が流れてランプが立ち消えます。
- 発電機については、発電機の取扱説明書をお読みください。

6-1. 点灯

運転前に、始業前点検を行ってください。（『10. 点検・整備』を参照）

- 1 車輪ブレーキを掛けます。（『5-2. 車輪ブレーキの操作』を参照）
- 2 アウトリガーを装備している機種は、アウトリガーで本機を固定します。（『5-3. アウトリガーの操作』を参照）
- 3 灯具・灯具台の向きを調整します。（『5-4. 灯具および灯具台の操作』を参照）
- 4 発電機の出カコンセントに電源コードが接続され、発電機の出カスイッチが『OFF』になっていることを確認します。

〈注意〉

- 発電機始動後、出カスイッチ『ON』状態で電源コードを接続すると、コンセントとプラグの間でスパークが発生します。必ず出カスイッチ『OFF』状態で電源コードを接続してください。

- 5 発電機を始動させます。（別紙『発電機の取扱説明書』を参照）
- 6 発電機の出カスイッチを『ON』にして、ランプを点灯します。

〈注意〉

- ランプの点灯が完全に安定するまでに 10～15 分程度かかります。

- 7 マストを上昇させて、灯具を任意の高さに合わせます。（『5-5. マストの昇降操作』を参照）

6-2. 消灯

- 1 マストを降下させます。（『5-5. マストの昇降操作』を参照）
- 2 発電機の出カスイッチを『OFF』にして、ランプを消灯させます。

〈注意〉

- 電源プラグ抜き取りによるランプの消灯は行わないでください。コンセントとプラグの間でスパークが発生します。

- 3 発電機を停止させます。（別紙『発電機の取扱説明書』を参照）

7. 運搬方法（移動・車載）

⚠ 警告：転倒

- 移動・車載など運搬時は、必ずマストを最低位置まで下げてください。
- 車載方向は、発電機側を進行方向（マストが後方）に向けてください。逆に向けると、急ブレーキを掛けたときに転倒しやすくなります。
- 車載固定は、必ず車輪ブレーキとロープ掛けを行ってください。尚、ロープのゆるみを防止するために、台車ハンドルを左右どちらかにきって、前輪に車輪止めも使用してください。

⚠ 警告：落下／けが

- フォークリフトで投光機を搬送する場合は、必ず発電機を搭載した状態で、マストを最低位置まで下げ、フォークを奥まで差し込んで行ってください。
- 本機を吊り上げるときは、必ず吊り金具を使用してください。

〈注意〉

- 車輪が埋まるなどして本機を牽引する場合は、必ず台車の牽引フックを使用してください。指定以外の部分を牽引すると、変形・破損の原因となります。
- 灯具にショックを与えないでください。ランプ破損の原因になります。
- 本機を吊り上げるときは、灯具を正面に向け、旋回ハンドルを締め付け固定してください。さらに灯具を下向きにし、灯具ハンドルで締め付け固定してください。灯具が吊り金具の近くにあると、クレーンのフックやワイヤーで破損する原因になります。
- 車載運搬時は、旋回ハンドルと灯具ハンドルを確実に締め付けてください。締め付けが弱いと灯具が動き、脱落や破損の原因になります。
- 本機はマストや灯具がクレーンのフックやワイヤーの接触で破損することを防止するため、吊り上げたときにマスト側に少し傾くようになっていますので注意してください。
- 台車ハンドルにはロープ掛けを行わないでください。ハンドル破損の原因になります。
- 輸送前にオイルガード内を点検し、液体が溜まっていれば排出してください。

本機は、フォークリフトで直接投光機下部をすくい上げて搬送が可能です。

〈注意〉

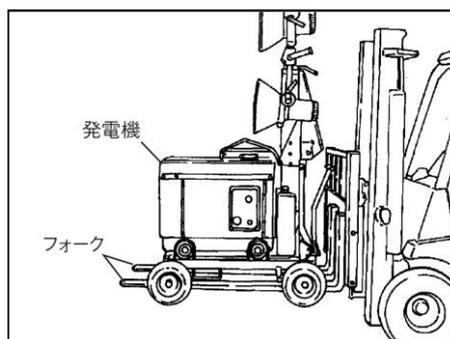
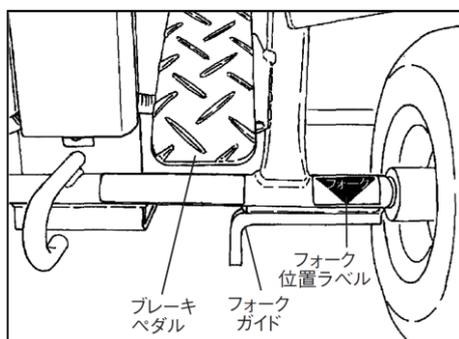
- フォークリフトで投光機を搬送する場合は、必ず発電機を搭載した状態で、マストを最低位置まで下げ、フォークを奥まで差し込んで行ってください。
- フォークリフトですくい上げて搬送する場合は、急勾配を前進で降りたり急旋回しないでください。投光機がフォークからすべり落下する恐れがあります。
- 投光機の前方からフォークリフトですくい上げないでください。搬送時にバランスが悪くなり落下する恐れがあります。

（1）投光機のマスト側（後方）からフォークリフトですくい上げる場合

灯具を正面に向け、フォークをフォーク位置ラベルに合わせ奥まで差し込んですくい上げます。

〈注意〉

- フォークは、必ず指定したフォークガイドに入るように差し込んでください。フォークガイド内にフォークを差し込まないと、投光機が損傷したり搬送時にバランスが悪くなり落下する恐れがあります。

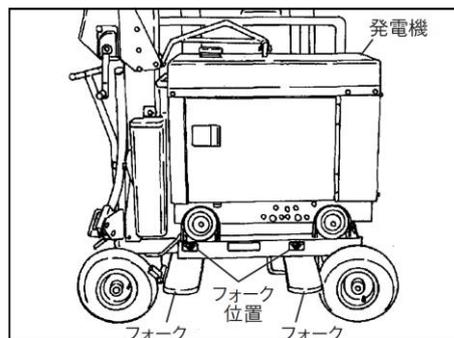
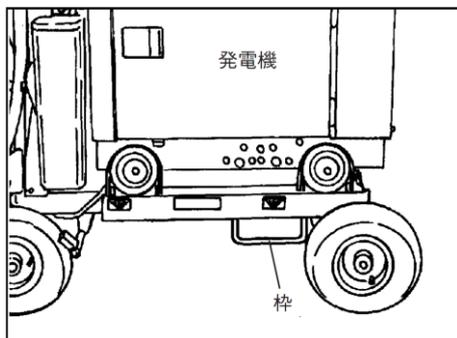


(2) 投光機の側面からフォークリフトですくい上げる場合

灯具を正面に向け、フォークをフォーク位置ラベルに合わせ奥まで差し込んですくい上げます。

〈注意〉

- 投光機の前輪側に差し込むフォークは、必ず指定した位置の枠内に入るように差し込んでください。枠内にフォークを差し込まないと、搬送時にバランスが悪くなり落下する恐れがあります。



8. ランプの交換方法

⚠ 警告：感電

- 運転中、本機や体がぬれているときは、本機に触れないでください。
- ランプなど点検・整備を行うときは、必ずエンジンを停止してください。

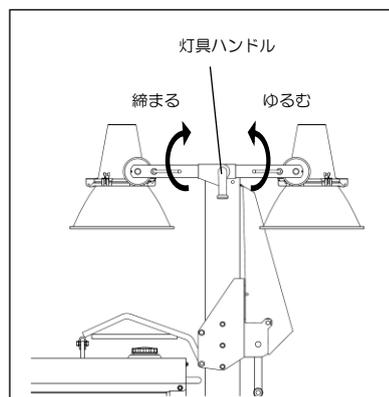
⚠ 注意：けが・やけど

- マストの昇降時は、マスト、ウインチドラム、ワイヤーに触れないでください。
- 灯具台の向きを変えるときは、必ず片手で灯具台または灯具脚を支えたまま、旋回ハンドルをゆるめてください。
- ランプを必要以上の力で締め付けしないでください。破損することがあります。
- ランプ点灯時や消灯直後は、ランプ、灯具、安定器が高温になっていますので触れないでください。

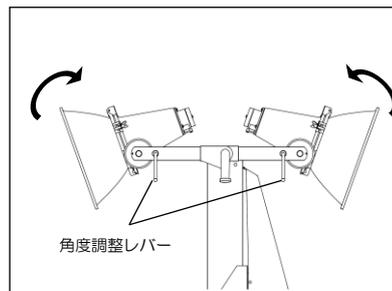
〈注意〉

- ランプは、岩崎電気製 400W メタルハライドランプ（定格電圧 130V）『MF400LSH/U』を使用してください。交換したランプを廃棄するときは、産業廃棄物として関連法規に基づいた処理を行ってください。処理にお困りのときは、お求めの販売店にご相談ください。

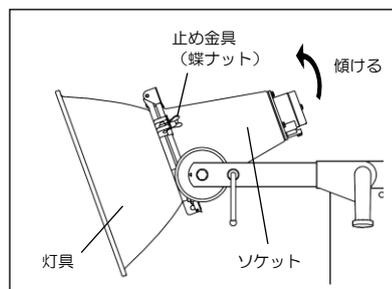
1 灯具ハンドルをゆるめ、灯具台を下向きにします。



2 角度調整レバーをゆるめ、灯具を傾けます。



3 灯具の止め金具（蝶ナット）をゆるめ、ソケットを傾けて灯具からランプを出します。



4 ランプを左に回し、ソケットから取り外します。

5 ランプ交換後、逆手順で取り付けます。

9. 発電機の積み降ろし方法

⚠ 警告：落下／けが

- 台車から降ろした発電機を搭載するときは、発電機を固定するボルトやナットを確実に締め付けてください。

発電機を単体で使用するときは、次の手順で積み降ろしを行ってください。
搭載は逆の手順で行います。

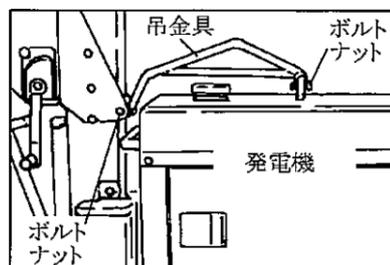
〈注意〉

- 発電機を台車に搭載したときは、発電機の周波数が安定器と同一になっていることを確認してください。

1 車輪ブレーキを掛けます。（『5-2. 車輪ブレーキの操作』を参照）

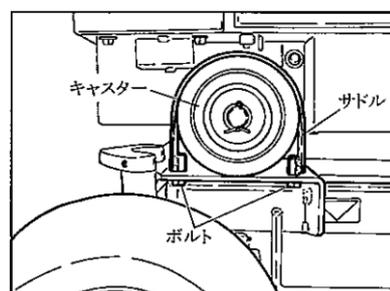
2 発電機の出カコンセントから電源コードを抜き取ります。

3 吊り金具と発電機を固定しているボルトとナットを外し、吊り金具をマスト側に押し上げます。



4 発電機車輪（キャスター）の押え金具（サドル）を固定しているボルト8ヶを外します。

5 発電機を台車から降ろします。



10. 点検・整備

⚠ 警告：感電

- ランプなど点検・整備を行うときは、必ずエンジンを停止してください。

⚠ 注意：やけど

- ランプ点灯時や消灯直後は、ランプ、灯具、安定器が高温になっていますので触れないでください。

本機を常に良好な状態で使用できるよう、次の表に従って定期的に点検・整備を行ってください。稼働時間は、発電機の積算時間計を目安にしてください。

〈注意〉

- 発電機については、発電機の取扱説明書をお読みください。
- 始業前点検以外は、専門技術者が行ってください。
- 交換部品は必ず純正品を使用してください。
- 消耗品を廃棄するときは、産業廃棄物として関連法規に基づいた処理を行ってください。処理にお困りのときは、お求めの販売店にご相談ください。

	No.	点検箇所	点検内容	始業前	100時間ごと	200時間ごと	処置
灯具	1	ランプ（灯具）	ゆるみ	○			増し締め
	2	カブラー端子	はずれ、はずれかけ		○		接続
	3	灯具脚固定ナット	ゆるみ	○			増し締め
	4	灯具ハンドル	ゆるみ	○			増し締め
	5	旋回ハンドル	ゆるみ	○			増し締め
マスト	6	マスト	動き	○			グリス塗布
			がたつき			○	樹脂メタル交換
	7	ワイヤー	折れ、ささくれ	○			交換
	8	ワイヤー末端固定ボルト	ゆるみ		○		増し締め
	9	ウインチ	ブレーキの効き	○			修理
			リングギヤのグリス		○		モリHDグリス塗布
	10	落下防止装置	ワイヤーをゆるめて、作動を確認	○			修理
	11	1段目の滑車	動き		○		モリHDグリス塗布
	12	2段目と3段目の間の滑車	動き		○		スプレーグリス塗布
	13	灯具台	左右の旋回		○		モリHDグリス塗布
14	電源ケーブル	被覆の損傷	○			補修、交換	
台車	15	アウトリガー	動き		○		モリHDグリス塗布
	16	アウトリガーレバー	動き		○		モリHDグリス塗布
	17	ハンドル固定ボルト	ゆるみ		○		増し締め
	18	ブレーキペダル	動き	○			モリHDグリス塗布
	19	ブレーキ	効き	○			ストッパー角度調整
	20	車輪	空気圧	○			空気圧調整
	21	吊金具固定ボルト	ゆるみ		○		増し締め
	20	発電機固定ボルト	ゆるみ		○		増し締め
	23	前輪操舵軸	動き			○	モリHDグリス塗布

(1) ブレーキの調整

⚠ 警告：転倒

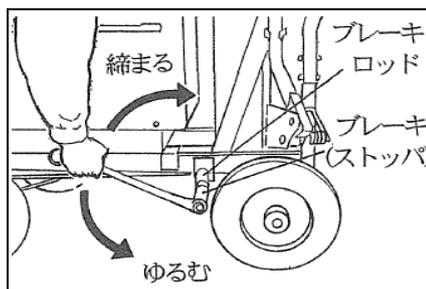
- ブレーキ調整時は、本機のブレーキ機能が使えないため、必ず地盤のしっかりした水平な場所で、車輪に車輪止めを使用し、マストを最低位置まで下げて行ってください。

車輪の空気圧を 196～245kPa (2.0～2.5kgf/cm²) に調整してもブレーキの効きが弱いようであれば、次の手順でブレーキのストッパー角度を補正してください。

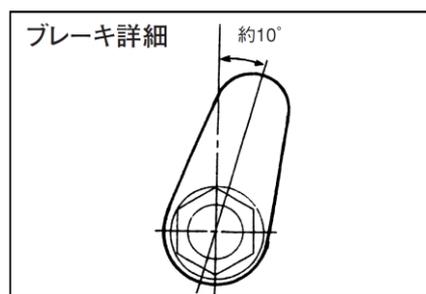
1 本機を水平な場所に移動し車輪止めを使用します。

2 車輪ブレーキを解除します。(「5-2. 車輪ブレーキの操作」を参照)

3 左右のブレーキロッドのナットをゆるめます。



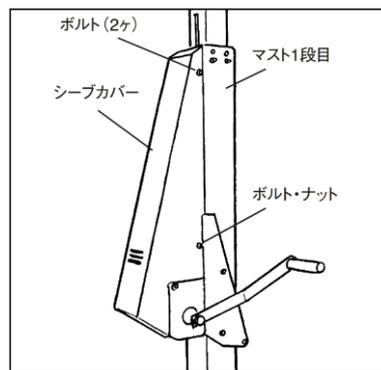
4 ブレーキのストッパー角度を真上より車輪側に約 10° 傾けた位置にセットします。



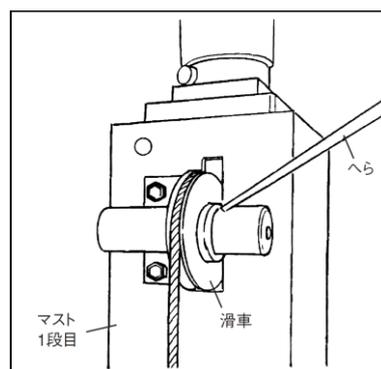
5 左右のブレーキロッドのナットを締めこんでストッパーを固定します。
ブレーキの効が悪い場合は、更にストッパー角度を増やしてください。

(2) 滑車へのグリス塗布

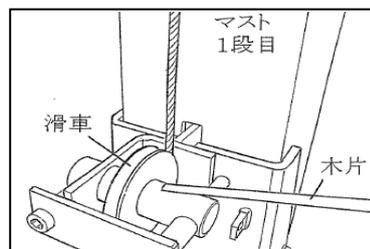
1 シーブカバーを固定しているボルト 2 本とボルト・ナット 1 組を外します。



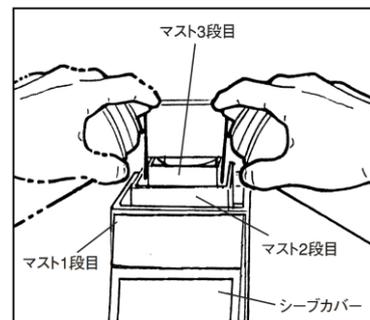
2 上側の滑車の摺動部に、へら等を使用して弊社指定グリス(モリHDグリス)を塗布します。



- 3 手順 2 と同様に、落下防止装置についた滑車の摺動部にも弊社指定グリス(モリHDグリス)を塗布してください。

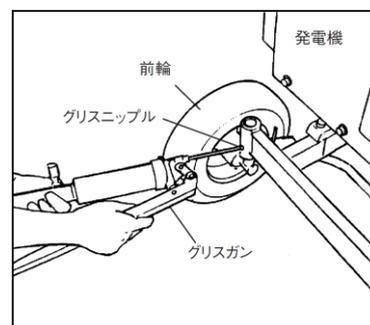


- 4 2 段目と 3 段目のマストの間にも滑車(左右 2ヶ所)がありますので、マストを最低位置まで下げて、上からスプレーグリスを塗布してください。



(3) 前輪操舵軸へのグリス注入

前輪の操舵軸軸受部のグリスニップル(左右 2ヶ所)に、グリスガンを使用して弊社指定グリス(モリHDグリス)を注入してください。



11. 長期保管

- ⚠ 警告：感電**
 - ランプなど点検・整備を行うときは、必ずエンジンを停止してください。
- ⚠ 注意：やけど**
 - ランプ点灯時や消灯直後は、ランプ、灯具、安定器が高温になっていますので触れないでください。

本機を2ヶ月以上使用しないときは、次の手順で整備を行ってください。

- 1 発電機を取扱説明書に従って整備します。
- 2 泥や汚れを落とし、グリスを塗布します。
- 3 マストを完全に下げ、ワイヤーの張りをゆるめます。
- 4 灯具を収納します。(『5-4. 灯具および灯具台の操作』を参照)
- 5 保管場所に移動し、車輪ブレーキを掛けます。

12. 故障時の対応

⚠ 警告：感電

- 運転中、本機や体がぬれているときは、本機に触れないでください。
- ランプなど点検・整備を行うときは、必ずエンジンを停止してください。

⚠ 注意：やけど

- ランプ点灯時や消灯直後は、ランプ、灯具、安定器が高温になっていますので触れないでください。

本機の調子が悪いときは、次の表にしたがって点検してください。点検しても正常にならないときは、お求めの販売店か弊社営業所に修理を申しつけてください。

症状	推定原因	処置
ランプが点灯しない	出カスイッチが『OFF』になっている	出カスイッチを『ON』にする
	消灯後すぐに再点灯させた	消灯後約 15 分待って、ランプが冷えてから点灯させる
	ランプが安定器に適合していない	適合ランプに交換する。
	ランプがゆるんでいる	ランプを確実に締め込む
	ランプの寿命劣化	ランプを交換する
マストが上がらない	マストの滑りが悪い	摺動面にグリスを塗布する
	滑車の回転が悪い	滑車にグリスを塗布する
	マストの間に異物が入った	修理
マストが下がってくる	ウインチのブレーキが故障	修理
マストが下がらない	マストの滑りが悪い	摺動面にグリスを塗布する
	落下防止装置が誤作動している	修理 (ウインチを巻き上げマストに力を掛けながらゆっくり下げる)
	マストの間に異物が入った	修理

株式会社やまびこ

〒 198-8760 東京都青梅市末広町 1-7-2
Tel 0120-176-181 (製品・技術的なお問い合わせ)
受付時間：弊社営業日 9:00~17:00

やまびこジャパン株式会社

〒 198-0025 東京都青梅市末広町 1-7-2 Tel 0428-32-1005 (代)

北海道支社

〒 004-0041 北海道札幌市厚別区大谷地東 1-2-20 Tel 011-891-2249 (代)

東北支社

〒 984-0002 宮城県仙台市若林区卸町東 5-1-50 Tel 022-288-0511 (代)

東日本支社

〒 198-0025 東京都青梅市末広町 1-7-2 Tel 0428-32-1091 (代)

中部支社

〒 452-0031 愛知県清須市西枇杷島町宮前 1-39 Tel 052-502-4111 (代)

西日本支社

〒 701-0221 岡山県岡山市南区藤田 566-159 Tel 086-296-5911 (代)

九州支社

〒 816-0943 福岡県大野城市白木原 5-3-7 Tel 092-573-5361 (代)

ご用命の際はご購入いただいた販売店へご連絡ください。